

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	道路維持事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	維持管理係	評価票作成者	土木課長補佐 小川 泰則
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	道路	コード	3 1 1
	項	道路・交通			単位施策(中)	道路の維持管理	コード	3 1 1 3
					単位施策(小)	維持補修の早急な対応	コード	3 1 1 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市道 1,293路線 延長348.092km		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		良好な市道の状況を保つ。		
1-5 事務事業の内容	道路パトロールや、市民からの要望、苦情により危険箇所の特定制して処理する。また、職員で対応できる事は早急に実施する。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	古材の有効利用を図り、直営で実施できることは、その場で行った。	財政状況が厳しい中で、予算を有効に活用する。		個人本意の要望が強くなった。	
	平成19年度	〃	〃		〃	
	平成20年度	〃	〃		〃	
	平成21年度	〃	〃		〃	
	平成22年度	平成22年度の苦情や要望件数は1090件で、この内183件が他の管理者の所管するもので、土木課で工事や委託等の検討対象になったものは907件です。この内806件(89%)は工事・委託対応しており、152件(19%)は道路反射鏡の角度調整や常温合材での穴埋めなど担当職員にて対応したものです。				
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	危険箇所発見・要望・苦情件数		900(件)	800(件)	道路パトロールによる危険箇所発見件数の内業者発注の件数、道路利用者からの要望、苦情件数の合計。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	629(件)	659(件)	655(件)	493(件)	505(件)					
	人件費 c(千円)	140,610	123,082	85,443	86,286	86,740					
	合計コスト d(b+c)(千円)	23,296	23,356	23,184	22,600	21,931					
	単位コスト d/a(千円)	163,906	146,438	108,627	108,886	108,671					
		市道維持管理 1件当たり 261	市道維持管理 1件当たり 187	市道維持管理 1件当たり 166	市道維持管理 1件当たり 221	市道維持管理 1件当たり 215	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 苦情要望等で受け付けた内容の内、実際に処理できた件数(発注件数)で、管理者実施分を含まない実数。  
人件費=作業根拠=3.5人×6,266千円=21,931千円

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(件)		922	834	853	896	907					
後期目標値に対する達成度(%)		76.5	93.5	89.8	81.6	79.5					

平成16年度現状値：1,321件、 $(1,321 - \text{現年値}) \div (1,321 - \text{後期目標値})$

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A	A					

4段階評価結果  
 A：上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B：事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C：縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D：事務事業の廃止が相当

判断の基準  
 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	道路の維持補修においても、リサイクル材の使用が望まれる。	経費の削減が求められているので、効率的な予算の執行に努めたい。	古材を使用して維持補修するなど、経費の削減に向けた取り組みができた。
平成19年度	ユニバーサルデザインの採用に心がける。	〃	職場全体で経費の削減に向けた取組が出来た。
平成20年度	要望が多様化する中、一つ一つの要望に対してよく吟味し、その積み重ねにより公平感のあるものにしていきたい。	一つ一つの要望に対してよく吟味し、効率的な予算の執行に努めたい。	古材を使用して維持補修するなど、経費の削減に向けた取り組みができた。
平成21年度	〃	〃	台風18号の影響で漸減していた要望処理数が増加に転じたが、効率の良い発注等更なる経費の節減に取り組むことができた。
平成22年度	要望が多様化する中、一つ一つの要望に対してよく吟味し、その積み重ねにより公平感のあるものにしていきたい。		
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		